平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年1月30日

上場会社名　株式会社ダスキン　　上場取引所　東 大
コード番号　4665　URL　http://www.duskin.co.jp/corp/index.html
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 山村　輝治
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役　(氏名) 鶴見　明久　TEL 06-6821-5071

四半期報告書提出予定日　平成25年2月13日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	126,866	△2.9	7,896	0.8	9,309	0.4	5,419	76.5
24年3月期第3四半期	130,634	△3.1	7,830	△8.3	9,274	△5.9	3,069	△34.2

(注)包括利益　25年3月期第3四半期　6,165百万円　(108.6%)　24年3月期第3四半期　2,955百万円　(△29.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	84.38	―
24年3月期第3四半期	47.56	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	197,132	151,442	76.4
24年3月期	197,316	149,604	75.4

(参考) 自己資本　25年3月期第3四半期　150,572百万円　24年3月期　148,781百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	―	0.00	―	40.00	40.00
25年3月期	―	20.00	―		
25年3月期(予想)				20.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成25年 3月期の連結業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	170,000	△0.7	9,000	△8.6	10,800	△7.0	5,700	24.4	88.67

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	66,294,823 株	24年3月期	66,294,823 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	2,309,834 株	24年3月期	2,009,339 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	64,225,253 株	24年3月期3Q	64,550,513 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きを実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 4
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 4
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 7
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 8
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 9
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 9
（５）セグメント情報等 …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間（平成24年４月１日～平成24年12月31日、以下「当第３四半期」）の我が国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景に、緩やかに持ち直す傾向にありました。しかしながら、期の後半は欧州債務危機再燃等による世界景気の減速や国内において電力料金の値上げ、消費税増税法案の成立等、先行きの不透明感が広がり、消費者の生活防衛意識や企業の経費削減意識は更に高まる状況が続きました。

このような環境の中、当社は「仕組みの改革」に主眼を置き、それをスピーディーに行うことを基本方針とする中期経営方針に沿った取り組みを進めておりますが、当第３四半期の業績につきましては、連結売上高は、1,268億66百万円（前年同期比2.9％減）、連結営業利益は、78億96百万円（前年同期比0.8％増）、連結経常利益は、93億９百万円（前年同期比0.4％増）、連結四半期純利益は54億19百万円（前年同期比76.5％増）となりました。

＜セグメント毎の状況＞

①クリーンケアグループ

清掃関連用具のレンタルや清掃美化関連のサービスを手掛けるクリーン・ケア事業は、家庭市場においては、引続きフロアモップ「ＬａＬａ」と置き型式掃除機「ダストクリーナー」を使った“新おそうじスタイル”の更なる普及、浸透に注力しました。テレビＣＭ他各種広告媒体を活用した広告販促に加え、ショッピングセンター等での体感デモンストレーションをはじめとする訴求活動を重点的に行なったことで、「ＬａＬａ」及び「ダストクリーナー」の売上は順調に増加しました。しかしながら、「ＬａＬａ」の販売初年度であった前期と比べ付属品等の売上が大幅に減少したことやハンディモップ売上が減少したこと等で、モップ商品全体では前年同期を下回る結果となりました。家庭市場の役務提供サービスは全てのサービス売上が前年同期を上回りましたが、家庭市場全体の売上高は前年同期を下回りました。（商品出荷ベース前年同期比2.5％減）

事業所市場においては、企業の経費節減意識は依然として強く、厳しい状況が続いており、全体の売上高は前年同期を下回りました。しかしながら、６月に発売した「スマートディスペンサーＡＵＴＯ（薬用泡ハンドソープ、便座除菌泡クリーナー用の薬剤自動抽出器）」が好調に推移し、化粧室周り商品の売上が増加したこと、清掃用具レンタルに清掃サービスや害虫駆除、衛生管理サービス等を加えたオーダーメイドの総合提案を繰り返し行う地道な営業が奏功したこと等で、マットを中心とするダストコントロール商品の売上減少幅は前年同期に比べ縮小しました。事業所市場の役務提供サービスにおいては、エアコンクリーニング等の清掃サービスは減少したものの、害虫駆除サービス、庭木の剪定サービスの売上は順調に増加しました。（商品出荷ベース前年同期比0.7％減）

クリーンケアグループのその他の事業につきましては、介護用品のレンタルが引き続き好調なレントオール事業は、イベントの受注件数も増加し前年同期の売上高を上回りました。ヘルス＆ビューティ事業は、11月に発売した共和化粧品工業株式会社（連結子会社）との共同開発商品である「ボディミルク（身体用保湿クリーム）」が好調に推移したものの、売上高は前年同期並みに留まり、ユニフォームサービス事業、ホームインステッド事業は、前年同期を下回りました。

以上の結果、クリーンケアグループ全体の売上高は、839億54百万円（前年同期比3.4％減）、営業利益は、114億13百万円（前年同期比4.2％増）となりました。

なお、支店で営業活動に従事する個人事業主の独立性をより高めるために、契約形態を変更したことによる当第３四半期の減収影響が約19億円あります。従いまして、前年同期と同条件で比較した場合、売上高は実質的には約10億円（約1.2％）の減収となります。この契約形態の変更による営業利益への影響はありません。

②フードグループ

ミスタードーナツ事業は、昨年年初に更新したブランドスローガン「こころをまあるく」の浸透を図り、ブランド力再強化の各種施策に取り組みました。商品面においては、長年支持いただき発売40周年を迎えた定番主力商品「フレンチクルーラー」や「エンゼルクリーム」等イーストシェルドーナツの生地材料・製法等を見直す等、徹底して“おいしさ”にこだわりました。更に、クリスマス商品として「スヌーピーのモンブランハウス」を発売する等、季節催事に合わせた商品や、人気タレント山口智充さん監修の「二度うまカレーパン」、オリンピックイヤーにちなんだ英国発祥の「スコーン」の発売等、話題性豊かな商品展開を行いました。プロモーション面におきましても、ＪＡＬ（日本航空株式会社）やＵＳＪ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）とのタイアップキャンペーン、かつて人気を博したスクラッチカードを使った「ラッキーカードキャンペーン」の復活、ミスドクラブにおけるグッズや商品と交換できる最低ポイントの引き下げ等で楽しさや話

題性を提供して、お客様の来店頻度アップを目指しました。また、公式Facebookの開設、Twitterを媒介したキャンペーン等、ソーシャルメディアの活用にも新たに取り組みました。出店については、５月には「東京ソラマチ」にミスタードーナツオリジナルキャラクターであるポン・デ・ライオンをテーマにした通称「ポン・デ・ライオンパーク」、９月にはＪＲ中央線西国分寺駅構内に新設された商業施設「nonowa西国分寺」内の中央線ホームに「ＪＲ西国分寺ショップ」をオープンしました。更に11月には、都心部への展開モデル店舗として「大手町フィナンシャルシティショップ」をオープンする等、新しい取り組みにチャレンジしました。これらの積極的な施策に加え、９月に実施したキャンペーン効果もあって上半期はお客様数については増加傾向であったものの、下半期に入り減少に転じ、単価も低下したことにより、売上高は前年同期を下回りました。

フードグループのその他の事業につきましては、カフェデュモンド事業、かつアンドかつ事業、スティック・スイーツ・ファクトリー事業、海鮮丼チェーンを運営するどん事業は、不採算店のクローズを進めたことにより店舗数が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

以上に当第２四半期より連結子会社となった蜂屋乳業株式会社の売上高７億64百万円を含めたフードグループ全体の売上高は、352億82百万円（前年同期比2.4％減）、営業利益は、11億43百万円（前年同期比37.9％減）となりました。

③その他

株式会社ダスキンヘルスケアで展開しております病院施設のマネジメントサービスは、新規契約件数は前年同期を上回りましたが、既存のお客様との契約が減額になったことを主因として、売上高は前年同期並みとなりました。ダスキン共益株式会社で展開しておりますリース事業は、ミスタードーナツ店舗へのシステム機器入れ替えに伴って売上高は前年同期を上回りました。

海外事業につきましては、ダストコントロール事業は、前期３月に新たに進出した韓国において、家庭市場の開拓が順調に推移しました。台湾においては前期に導入した役務提供サービスとの相乗効果が出始める等、その他の既存展開地域においても市場拡大に向けた各種施策の実行に注力しました。ミスタードーナツ事業は、８月で進出から１年を迎えたマレーシアの売上は概ね順調に増加し、タイ及び上海も新規出店を進め好調に推移しましたが、その他の地域の売上が減少し、ミスタードーナツ事業全体としては、ほぼ前年同期並みの売上高となりました。

以上の結果、その他の売上高は、76億29百万円（前年同期比0.7％増）、営業利益は、２億84百万円（前年同期比0.8％減）となりました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第３四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,971億32百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して１億83百万円減少しております。その要因は、現金及び預金が24億58百万円、受取手形及び売掛金が17億57百万円、ミスタードーナツ店舗へのシステム機器入れ替えに伴い有形固定資産その他が10億34百万円増加したことに対し、投資有価証券が債券の売却及び償還等により32億26百万円減少したこと等であります。

負債残高は456億90百万円となり、前期末と比較して20億21百万円減少しております。その要因は、退職給付引当金が９億83百万円増加したことに対し、賞与引当金が16億１百万円、未払法人税等が11億23百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,514億42百万円となり、前期末と比較して18億37百万円増加しております。その要因は、四半期純利益54億19百万円と剰余金の配当38億57百万円との差引により利益剰余金が15億62百万円、その他有価証券評価差額金が６億57百万円増加したことに対し、自己株式の取得により４億55百万円減少したこと等によるものであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成25年３月期通期の業績予想につきましては、平成24年10月31日に公表した業績予想を変更しておりません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

連結子会社の税金費用については、当第３四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,600	18,058
受取手形及び売掛金	10,891	12,648
リース投資資産	1,850	1,830
有価証券	18,153	17,067
商品及び製品	6,345	6,035
仕掛品	195	159
原材料及び貯蔵品	1,456	1,980
繰延税金資産	2,306	1,647
その他	2,675	3,021
貸倒引当金	△72	△39
流動資産合計	59,401	62,411
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,283	41,898
減価償却累計額	△23,361	△24,094
建物及び構築物（純額）	17,922	17,804
機械装置及び運搬具	21,742	23,435
減価償却累計額	△15,507	△17,083
機械装置及び運搬具（純額）	6,235	6,352
土地	23,818	24,232
建設仮勘定	268	305
その他	11,881	13,695
減価償却累計額	△8,317	△9,096
その他（純額）	3,563	4,598
有形固定資産合計	51,809	53,291
無形固定資産		
のれん	200	690
その他	8,926	8,005
無形固定資産合計	9,126	8,696
投資その他の資産		
投資有価証券	60,816	57,590
長期貸付金	45	132
繰延税金資産	6,998	6,171
差入保証金	7,876	7,580
その他	1,454	1,452
貸倒引当金	△212	△193
投資その他の資産合計	76,979	72,733
固定資産合計	137,915	134,721
資産合計	197,316	197,132

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年12月31日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,616	7,335
1年内返済予定の長期借入金	94	99
未払法人税等	1,902	778
賞与引当金	3,422	1,820
ポイント引当金	449	405
資産除去債務	253	2
未払金	6,669	5,741
レンタル品預り保証金	10,634	11,177
その他	4,281	3,838
流動負債合計	34,323	31,201
固定負債		
長期借入金	151	113
退職給付引当金	11,965	12,949
債務保証損失引当金	60	24
資産除去債務	355	581
長期預り保証金	791	780
長期未払金	62	37
その他	2	2
固定負債合計	13,388	14,489
負債合計	47,711	45,690
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,337	11,337
利益剰余金	131,591	133,153
自己株式	△3,176	△3,632
株主資本合計	151,104	152,211
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,793	△1,136
繰延ヘッジ損益	3	6
為替換算調整勘定	△533	△509
その他の包括利益累計額合計	△2,323	△1,638
少数株主持分	823	869
純資産合計	149,604	151,442
負債純資産合計	197,316	197,132

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）
売上高	130,634	126,866
売上原価	73,530	72,069
売上総利益	57,104	54,796
販売費及び一般管理費	49,274	46,900
営業利益	7,830	7,896
営業外収益		
受取利息	675	698
受取配当金	222	201
設備賃貸料	97	90
受取手数料	211	218
負ののれん償却額	17	－
持分法による投資利益	17	－
営業権譲渡益	72	131
雑収入	458	366
営業外収益合計	1,772	1,707
営業外費用		
支払利息	4	3
為替差損	81	40
持分法による投資損失	－	64
支払補償費	26	65
賃貸借契約解約損	86	33
雑損失	129	87
営業外費用合計	328	294
経常利益	9,274	9,309
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却及び償還益	130	939
負ののれん発生益	0	－
貸倒引当金戻入額	24	－
その他	9	97
特別利益合計	164	1,037
特別損失		
固定資産売却損	32	3
固定資産廃棄損	127	118
減損損失	71	67
投資有価証券評価損	1,079	706
災害による損失	284	－
その他	25	17
特別損失合計	1,621	912
税金等調整前四半期純利益	7,817	9,433
法人税等	4,698	3,962
少数株主損益調整前四半期純利益	3,119	5,470
少数株主利益	49	51
四半期純利益	3,069	5,419

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純利益	3,119	5,470
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△53	657
繰延ヘッジ損益	△5	2
為替換算調整勘定	△56	22
持分法適用会社に対する持分相当額	△48	10
その他の包括利益合計	△164	694
四半期包括利益	2,955	6,165
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,928	6,104
少数株主に係る四半期包括利益	26	60

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

（５）セグメント情報等

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　平成23年４月１日　至　平成23年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	クリーングループ	フードグループ	その他（注１）	計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
売上高						
外部顧客への売上高	86,889	36,168	7,577	130,634	―	130,634
セグメント間の内部売上高又は振替高	651	4	1,800	2,455	△2,455	―
計	87,541	36,172	9,377	133,090	△2,455	130,634
セグメント利益	10,950	1,840	286	13,076	△5,246	7,830

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額△5,246百万円には、セグメント間取引消去△20百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△5,226百万円が含まれております。

３．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

当第３四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第３四半期連結累計期間の償却額及び当第３四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	クリーングループ	フードグループ	その他	全社・消去	合計
当第３四半期連結累計期間償却額	96	2	0	―	99
当第３四半期連結会計期間末残高（注）	236	0	―	―	236

（注）当第３四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成20年７月に取得した株式会社アミ・コーポレーション（現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合）ののれん残高93百万円（クリーングループ）と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高103百万円（クリーングループ）等であります。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	クリーンケアグループ	フードグループ	その他（注１）	計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
売上高						
外部顧客への売上高	83,954	35,282	7,629	126,866	―	126,866
セグメント間の内部売上高又は振替高	720	10	1,874	2,604	△2,604	―
計	84,674	35,293	9,503	129,471	△2,604	126,866
セグメント利益	11,413	1,143	284	12,841	△4,945	7,896

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額△4,945百万円には、セグメント間取引消去△８百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△4,936百万円が含まれております。

３．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

４．第１四半期連結会計期間より、従来の「クリーングループ」について「クリーンケアグループ」へ名称変更いたしました。
なお、当該変更は、名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

「フードグループ」セグメントにおいて、平成24年５月に蜂屋乳業株式会社を子会社化したことに伴い、当第３四半期連結累計期間では404百万円ののれんが発生しております。

なお、のれんの当第３四半期連結累計期間の償却額及び当第３四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	クリーンケアグループ	フードグループ	その他	全社・消去	合計
当第３四半期連結累計期間償却額	101	40	―	―	141
当第３四半期連結会計期間末残高（注）	326	364	―	―	690

（注）当第３四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成24年５月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高364百万円（フードグループ）、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高270百万円（クリーンケアグループ）及び平成20年７月に取得した株式会社アミ・コーポレーション（現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合）ののれん残高31百万円（クリーンケアグループ）等であります。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。